

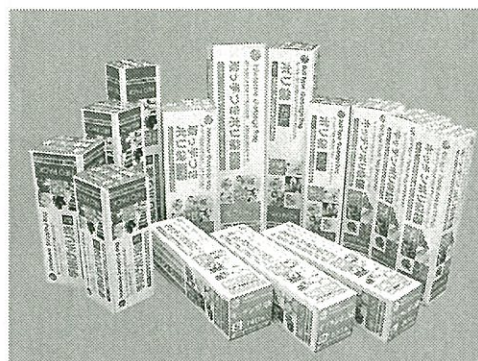
# ごみ袋集特

# 「薄肉化」「営業力強化」を徹底

「ごみ袋の主流は「ポリエチレン」だが、環境配慮型で非石油系素材のごみ袋も市場での採用を伸ばしている。差別化も難しく、頭打ちの感がある。「ごみ袋市場では今後の向かう方向としては、「薄肉化」「営業力強化」だ。「薄肉化」では、従来品のPE袋同様の強度を維持し、薄肉

## オルディ 高機能型ごみ袋を相次ぎ開発 BOX型。ポリ袋も着実に

オルディ(大阪市中袋)3シリーズを一斉に詰め、ラップ製品採用を皮切りに、近畿中央区、06・624に発売し実績を上げつのように1枚ずつ取り出すことができる製OXタイプのロールポリ袋と、さらには、品、ロール状にする「ごみ袋」新素材に特殊加工技術とで場所をとらず、袋「キッチン袋」手提げを駆使した医療廃棄物詰めタイプのよう



BOXタイプのロールポリ袋 3シリーズ

用ごみ袋なラゲージ1枚ずつサツとど、機能性簡単に取り出せるなどを高めたご一段と取り扱いが容易み袋の製品になった。リニューアルしたホおり、順次ームページなどを活用する予し、生活に溶け込んださ定。さまざまな提案を行う「BOX方、スーパーなど小売ロールポリ業に対しても箱入り陳袋シリー列による差別化など多ズ」は、口様な提案を行っている。ール状のポ この結果、中四国地リ袋をケー 区の有力スーパーでの

## 本 日 製販一貫体制で高い評価 環境配慮型ポリ袋にも注目

日本サニパック(東京都渋谷区、03・3469・4600)展開にも積極的な取り組みをみせている。また、従来以上に増した心算とともに提案た業界の関心事でもあてごみ袋に特化し、高型営業で取扱を図る環境配慮型ごみ袋品質、安定供給、コストにも注目している。トパフォーマンスの3

同社最大のセールスポイントといえば、インドネシアのバタム島にごみ袋の専用工場を有していること。同工場により安定供給、品質の向上を確立している。また製造販売の一貫体制で取り組み、家庭用から業務用など幅広い分野の需要家から高く評価されている。

差別化の困難なごみ袋市場のなか、同社では主力製品である家庭

化を図り、環境面や価格面での差別化に取り組んでいる。「営業力強化」では、社員教育を積極的に行い、消費者ニーズを把握し、柔軟に対応できる体制作りを目指している。「ごみ袋を扱う企業のトピックス」を紹介していく。

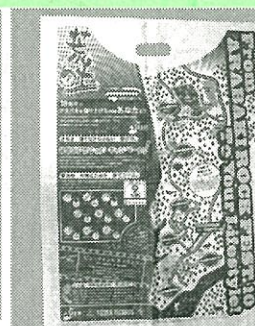
1に採用されるなど実績を高めつつある。ただ、キッチン用とレジ袋が先行しているという。同シリーズの発展バージョンとして、ミシン目入りロールタイプではなく、インタリープ方式とエンボス加工により、取り出しをさらに容易にした製品の開発を進めている。袋1枚を引き出すと次の1枚の頭の部分が出てくるタイプで、キッチン用のMサイズを来年早々にも発売する予定。特に、シニア層をターゲットに、機械的改良も加えて実現した。スプラッシュ製品など

## 中興化成工業 多くの納入実績を生分解性プラの

また、口の部分の四方が縛りやすいごみ袋の開発も手掛けています。これらも近々上市する予定。ごみ袋については、高機能が付加した形で製品開発にも積極的

## 武蔵野産業 米を利用したごみ袋 CO2発生量を約30%削減

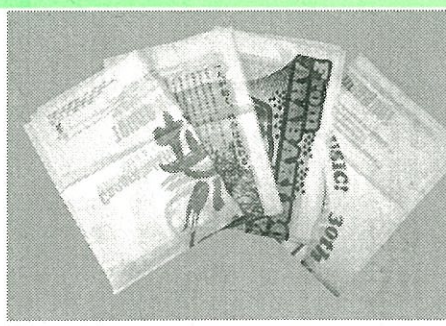
武蔵野産業(東京都杉並区、03・3331・3686)は、古くより食べられなく(古古米・非常食米)を利用したごみ袋を開発している。必要としない。ライスポリを使用し「ポリ」のさらたごみ袋は近年、野外なる取扱を指す。通常の火会場で採用されている。CO2を削減する



削減できる。通常のポリ乳酸などのバイオプラは、トウモロコシなどに多く含まれるでんぷんから取り出し、イオマスに付加価値を付与したごみ袋など、積極的に取り組む方針だ。

## 岩井化成 国内産の

岩井化成(茨城県坂東市、0297・35・1879)が提案するごみ袋「農強ダストパック」への引き合いが好調だ。



身を確認することができない特定のフィルムを採用していることである。カラスの網膜の視細胞には、油球という組織がある。この油球は色を識別するフィルタの役割を果たし、カラスはこの組織が多いために人間より色覚に優れている。そこで、この油球の機能を逆手

## 共同開発品の特許取得

### 三井化学ファブロ/大倉工業 類似品との差別化を図る

三井化学ファブロは、カラス対策ごみ袋を改めて発表した。(東京都千代田区、03・5213・32)「散らカラス」(三井化学ファブロ)、「から」(大倉工業)と大倉工業(香川県丸亀市、087・56・1111)の共同開発を行った、同製品に関する特許概

荒らしの被害を抑えられる。今回の発表にあたり担当者「近年、『散らカラス』や『からすシャット』の類似品が黄色に着色されているだけで、内容が視認されているだけの製品が多いため、内容が視認できなくなる。その結果、カラスによるごみ袋の差別化を図っている。これを改めて紹介し、たく今回「農強ダストパック」の発表に際しては、同製品に関する特許概

# 消費者ニーズを把握、柔軟に対応



特定のフィルムを採用

と述べている。